

日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会（第13回）議事要旨

【日時】 平成22年2月8日（月） 15：00～18：30

【場所】 日本学術会議6-A(1)会議室

【出席者】 海部委員長，谷口副委員長，長谷川幹事，家幹事，浅島委員，
北澤委員，野家委員，平委員

【議題】

- 1) 前回議事要旨（案）の確認
- 2) 提言（案）とりまとめについて
- 3) その他

【資料】

資料1 前回（第12回）議事要旨（案）

資料2 『日本の基礎科学の発展とその長期展望』案（平成22年2月8日版）
[海部委員長まとめ]

資料3-1 科学者委員会『学術統計データの構築に向けた検討分科会（仮称）』の設置について（案）

資料3-2 学術政策のための統計データに関する検討の主体について（案）
机上配布 『日本の基礎科学の発展とその長期展望（案）』（谷口副委員長コメント版）

参考1 委員名簿

参考2 各作業分科会・テーマ別検討分科会提言（案）および分野別委員会報告（案）の査読について

参考3 日本の展望関係提言・報告フォーマット

参考4 表記の統一について（参考）

【議事】

海部委員長から，資料確認の後，「提言（案）は査読を経た．起草分科会が2月26日に開催されるため，最終案の事務局締切りが12日となっている．基本的には今日最終案をまとめたい」との発言があった．

1) 前回議事要旨（案）の確認

海部委員長から，第12回（2009.11.18）の議事要旨（案）について諮られ，承認された．

2) 提言（案）とりまとめについて

●報告書（案）に対する査読意見は先にメールでお送りしてある．資料2は査読意見を踏まえた改訂である．北島先生からは文章表現も含めてたいへん丁寧なコメントをいただいている．北島先生・秋山先生からのご意見はできるだけ採り入れる方向

で改訂を行なった。また、読み直して気づいた点を若干修正してある。学術政策および大型計画に関して、若干言い放しになっている箇所があったので付言した。人文社会科学も含めた全体を議論するときには、できるだけ「学術」という言葉を使うようにしているが、徹底していない箇所もあるかもしれない。

○先日コメントをメールでお送りしたはずだが、今日の資料にはそれらが反映されていないようだ。副委員長でありながらこの時点になっていろいろ言うのは心苦しいが、どうしても引っかかるところがある。

●いろいろ行き違いがあった。昨日作業中にファイルを亡くしてしまったため、コメントを反映できていない。

○科学技術基本法や基本計画は文科省だけでなく全体のものであるはずであるが、「科学技術基本計画の策定」と「文部省と科技庁の統合」とを並べた記述があり、「旧文部省・旧科技庁」といった生々しい表現があって、旧科技庁系が席卷した結果歪みが生まれているというように読まれかねない表現になっている。この報告書がいろいろな人に読まれることを考えるとこのような表現は削除したほうがよいだろう。もう一点、日本学術会議は科学者コミュニティを代表しているが、「国民を代表する」ものではないと思う。

○この文脈からすると「基礎研究が基礎科学を推進する」という言い方であるが、「一方、応用研究も重要である」と書かれている。「応用研究も基礎科学に寄与するものである」という記述がない点が、少し危険ではないかと思う。「応用研究に重点が行き過ぎているのが問題だ」という論調になっている。基礎科学や学術を推進するものの中に、応用研究を入れているのかどうかははっきりしない。

○本提言では、「フラスカッティマニュアルに則した分類で学術政策を立てなければならない」という主張をしている。「第三期科学技術基本計画の『基礎研究に2種類ある』というような認識は間違いだ」というのが本提言の主張だと思う。「基礎科学は特定の目的を持つか否かにかかわらず、大学等の研究機関で行われるボトムアップ型の知的活動である」という定義をすれば、医学・工学・農学分野の活動も包含され、「基礎研究も応用研究とともに独創性のある活動である」というフラスカッティマニュアルの定義に沿ったものになる。

○「目的志向の基礎研究」というものを排除しているのではないが、そのように狭く読まれる可能性があるとすれば、誤解のないように修正すべきだろう。

○基礎科学の中に人文科学を位置づけることが大事だろう。

●社会科学は基礎科学に入るだろうが、人文学までを基礎科学の範疇に入れるのは

別の意味の混乱を招くだろう。

○人文学は別途扱うほうが良いだろう。

○基礎科学と基礎研究が混在していて、整理がついていない部分がある。

●「基礎科学」で差し支えない部分についてはできるだけ基礎科学に統一する方向で修正したい。要旨の iii ページ目の「文部省と科技庁の統合」云々という言及は適当ではないので削除する。「国民を代表して」という表現は削除する。

○学術とは何かという記述を要旨に入れるべきではないか。

●本文の 2 ページ目には学術の位置づけが書いてある。それを要旨にまで入れるべきかどうか。

○「少数の大規模国立大学以外では研究・教育の活力が低下し」とあるが、少数の大規模国立大学も疲弊しているのではないか。

●東大などには巨額の研究費が入っているという一般からは見られているのだろう。

○「東京大学が疲弊している」という客観的なデータはあるのか。

○予算的なこともさることながら、法人化以降いろいろな規制でがんじがらめになっている。

○もうひとつは教育に関する面で、研究費は取れても教育にかける予算が不足しているという状況がある。

●「少数の大規模国立大学以外では」という表現を削除することにした。

○17 ページのところで、「基礎研究・応用研究の定義が曖昧であるので整理する必要がある」と言いながら、ここで定義している。

○その観点からは、私案はこの後に「基礎科学は特定の目的の有無にかかわらず大学等の研究機関で行われるボトムアップの知的活動である」といった記述を置くというものである。この提言をまとめる意義は、第4期科学技術計画にインプットすることにあるのではないか。

●第4期科学技術計画へのインプットは既に出してある。この報告はもっと長期的な視点でまとめるのが趣旨と理解している。

○17 ページの記述の意図は、基礎研究・応用研究の受け取り方が人によって異なるのは当然であって、そういう科学論的な議論は当然あるが、学術統計はある統一的な基準で行うべきである、という趣旨である。

○「大学・研究機関の復権・活性化」のところに参考までにと書いて書いたが、削っていただいて結構である。

●主張の趣旨には賛成であるが、査読を経たこの時点でこれだけのボリュームの記

述を付け加えるというのは問題なので、エッセンスだけを取り込ませていただきたい。

○「国際的かつ知的存在感のある文化国家・・・貢献していかなければならない」という部分を使わせていただくと格調高くなる。

●9ページに「教育教育機関の評価には不適切と思われる経営評価」という表現が査読委員から提示されているが、経営評価そのものは否定すべきことではないので、この部分をどう表現したものか。

○この書き方では経営評価が元凶でと言っているかのように読まれてしまうので、「過度に詳細で煩雑な評価」というくらいの表現でどうか。

●大型研究に関して、最近かなり議論が進んで「大規模研究」という概念が確立してきたので少し補筆した。

○「最近大きな科学的成果を発信している研究者に小規模大学の出身者が多く居る」という記述を「大学の地理的要因や規模にかかわらず・・・」という文言に替えてみた。

○もとの表現は私の思い入れが出過ぎていたかもしれない、この表現のほうが一般性があると思う。

●15ページのところに加筆したが、このうち、「旧文部省と旧科技庁の統合・・・」という文章は削除して、その次の「いま極めて重要なのは・・・」という文言だけを残すことにしたい。

○同じく15ページの「規模の大きい国立10大学以外は」といった表現は「規模の大きい大学以外は」という程度の表現にしてはどうか。

○「ここ5年間で」というのは平成16年をまたいでいるかどうか。平成16年に競争的資金の総額が見かけ上増えたということがあり、1100億円増というのはそれを含む額ではないかと思う。

○この報告書の中には、かなり細かいデータを示している部分もあるが、細かいことを言えば言うほど逆手に取られて足元を掬われることにならないか。データが怪しいと学術会議の主張には説得力が無いと言われかねない。

●だからこそ、学術データをしっかりしなければいけない。

○あまり詳しい数値を出すのは、分かりやすい反面、足元を掬われる危険性もある。

○運営費交付金の減額については高専の分を別にしたとか、いろいろな要素があって複雑なので、具体的な数字は外しておいたほうがよいかもしれない。

●16ページに「空洞化現象」という表現が査読者から提案されているが、もとの

議論とは少し趣旨が異なる。

○「空洞化現象が発生し、我が国の国際競争力にも影を落としている」を「このことが我が国の国際競争力に影を落としている」としてはどうか。

●20ページのところの「基礎科学・応用科学と人文・社会科学を含む学術」という表現を「基礎科学を含む学術」という表現との変更案になっているが、人文系の人にはどう受け取られるだろうか。

○半分くらいは賛成し、半分くらいは違和感を持つだろう。

○科学技術基本法では、「科学技術（人文科学を除く）」と書かれている。

○「人文科学のみにかかわるものを除く」という表現になっている。したがって「自然科学と連携する人文科学」は含まれることになる。

●最初のところで基礎科学は「人文社会科学を含める位置づけることにしたので、ここは単に「基礎科学」とする。

○この提言を施策に反映させるというパンチのアル記述があったほうが良い。

●12日が事務局締め切りであるが、多少猶予をいただいてこの週末に最終版をまとめる作業をしたい。

○要旨は多くの人に読まれると思うので確認したいのだが、何を誰がやるべしと言うのかを明確にするほうが良いのではないか。

●日本の展望は社会全体に対して発信するもので、特定の省庁に対するものではないが、その中に具体的な提言がちりばめられているのは良いと思う。具体的な提言についてはむしろフォローアップをどうするかが問題だと思う。

○スタイルの点で確認したいのだが、目次のところの提言の小見出しが2行3行にわたっているものもあって、目次のスタイルとしてはうるさい感じがするが。

○これしか読まない人もいるので、このぐらい書いたほうが良い。

3) その他

・学術統計データの検討を行う分科会の設置について

●学術の統計データについての検討を行う分科会を設置を提案したい。それを科学者委員会の下に設置することを考えていたが、規定上問題があると聞いた。そのあたりのことを事務局から説明いただきたい。

事務局：科学者委員会のミッションの規定がそのようには読めないということである。大型計画分科会の設置に関しては無理矢理解釈したようだが、本来の趣旨から言うと、科学者のあり方等を議論する委員会である。

●学術会議に学術政策を議論する場がないというのは問題である。細則を変えればよい話ではあるが、学術データの検討委員会の設置を提案する母体としてここが良いのか、別のやり方があるか。

事務局：科学者委員会は科学者に関することを議論する委員会という位置づけである。日本の展望委員会は常設委員会なので、委員長名で分科会の提案は出せる。課題別委員会を立ち上げるというやりかたもある。

●委員会の立ち上げについて賛同いただければ、設置の仕方についてはいくつかのやり方があるようだが、とにかくコアになるメンバーとしてはこの分科会から何人かお願いすることになる。改めて依頼したい。

・学術会議からの勧告について

●起草委員会で勧告を出すことを考えているが、1つは学術政策、もう1つは人材育成、ということで2つに絞る方向で議論がなされている。

○勧告を国際化という問題をどう考えているのか、という思いがある。研究にしても人材育成にしても国際化ということを真剣に考えないと、日本の大学が取り残されるのではないかという危機感を私的には抱いている。

●国際化に関することを勧告に盛り込むようにということか。

○人材育成なら人材育成の中で国際化という文脈を考慮してほしいという趣旨である。

・フォローアップについて

●シンポジウムなどフォローアップアクションについて何が考えられるか。この委員会は常設とのことなので、委員はまだしばらくはお付き合いいただくことになる。

○科学技術基本計画へのインプットに時期は一応過ぎたし、年度末は何かと忙しいので、効果的な時期を選分のが良いだろう。

●学術会議自体がどうやっていくのかということが問われている。具体的な活動としては、学術統計データに関することがあるし、もっと広く言えば学術政策がある。国際化という課題もあるだろう。

○外から見ている人に「学術会議は弱体化している」と言われる。いまだに議事録は研究者が取らなければならないという実態がある。事務局には頑張ってもらっているが、学術会議に対して残念ながらあまり良い評判は聞かない。

●学術会議の外部評価をした人に「学術会議、あれはだめですよ」と言われてショ

ックだった。しかし、「ではやめてもよいのか」ということにはならない。「学会議はいかにあるべきか」というのはシンポジウムのテーマのひとつになるだろう。会期中にもう一度この分科会を開催して、フォローアップについて議論することとしたい。

○次回の分科会については、改めて日程調整する。